

# 第63回社会教育研究全国集会 東北福島集会 現地実行委員会だより

今日はいよいよ、会場となる「福島大学」での委員会開催です。  
当日の雰囲気がかめるといいですね(^ ^)/



実践発表をされる引地さん。発表の中で印象深かったのは…。  
東日本大震災後、「仲間がいるからここで生きていける」  
「つながりあい助け合いの第一歩」  
そして、住民の「やりたい」をかなえる手助けをし、主役が住民なのが  
なにより素敵です！住民をエンパワーメントし続けている引地さん！



引地さんと活動を共にしてきた菅野正寿さんの言葉にも力が入ります。

3月16日(土)の  
現地実行委員会は  
学習会を実施!  
「人と人のつながりのある地域を  
目指して」

～住み慣れた地域で楽しく  
安心して暮らし続けるために～  
報告者 引地知子さん  
(福島県二本松市 集落支援員)

引地さんは、青年団活動をきっかけにさまざまな活動を地域で展開してきた方です。引地さんの実践に学ぶことはとても多く、一晩でも語り明かしたい気持ちになりました。青年団活動が地域と関わる活動の原点であり、みんなで一つのことを成し遂げる喜びの原点になったと語り始めた引地さん。今も集落支援員として地域の若い方々の活動も支援し、つながりづくりに努めていらっしゃいます。一番は、引地さんの朗らかなお人柄にひかれてがんばってみようと思う方が多いのではないのでしょうか？



## 東北福島集会のテーマを考える

今回のグループワークは、「東北福島集会のテーマを考える」  
これまで行われた第1回～第62回までのテーマを見比べ、東北福島集会へ思いを注入！グループワークをしてみて、実行委員それぞれの思いが募ってきていること、それぞれが大切に考えている社会教育が見えてきました。それがまた、圧巻。今回もオンラインを併用し、オンラインで参加した方々はブレイクアウトルームで話し合うなど、工夫をしました。

…「分断」という言葉は強すぎないか？

…その言葉を使うならば、事例の検証が必要ではないか？

…時間が経つにつれて、つながりという点で悪化していないか？などなどのテーマだけでない、意見も出されました。

出された意見には、東日本大震災から13年。苦労もありましたが、苦難を乗り越えて、「何か」をつかみ、確かに前へ歩みを進めた私たちの日々の営みが見えました。

対話・コミュニティ・分断・共同などなどたくさんのキーワードが出されました。皆さんの意見がどのようなテーマとなり、基調提案となっていくのか楽しみにしててください。

次回は、5月12日(日)に現地実行委員会を開催します。あっという間に3か月半前(‘◇’)♪